

【補足資料】大宮工業・浦和工業新校基本計画検討委員会（第1回） 議事詳細

- 1 日 時 令和4年12月16日（金） 午後3時開会
午後4時30分終了
- 2 会 場 県立大宮工業高等学校大会議室
- 3 出席委員 栗藤委員長、野辺副委員長、櫻井副委員長、中出委員、宮崎委員、
関委員、山崎委員、菊池委員、万沢委員、西委員、山口委員、
大高委員、宿谷委員、菊地委員、井野委員、横山委員、大場委員、
鯨井委員、岩本委員、高橋委員、石井委員、手島委員、遠井委員、
松村委員
- 4 事務局 魅力ある高校づくり課 坂本、高辻
- 5 協 議 「大宮工業・浦和工業新校基本計画検討（案）」について
栗藤委員長 それでは、協議に入ってまいります。まず、事務局の方から、この委員
会の性格等について説明をお願いしたいと思います。
事務局 （新校基本計画検討委員会について、今後のスケジュールについて説明）
栗藤委員長 事務局から説明がありましたが、何か御質問等はございますでしょうか。
よろしいでしょうか。それでは、資料1、魅力ある県立高校づくり第2期実施方策
に関して、事務局から説明をお願いします。
事務局 （魅力ある県立高校づくり第2期実施方策について説明）
栗藤委員長 実施方策について、説明がございました。昨年10月に策定され、県民
の皆様既に公表している内容となっております。何か質問等がありましたら願
いします。よろしいでしょうか。それでは、次に進めたいと思います。ただ今説明
がありました実施方策をもとに、両校において、新校基本計画検討（案）を作成し
ていただいております。副委員長である両校教頭から説明を含めてお願いしたいと
思います。項目が多岐にわたっておりますので、最初は基本理念から基本姿勢とい
うところまで、まずお願いをしたいと思います。そして皆さんから御意見等を頂戴
して、これを繰り返していきたいと思います。では、よろしく願いいたします。
野辺副委員長 （大宮工業・浦和工業新校基本計画検討（案）のうち基本理念（目指
す学校、育てたい生徒像）、基本姿勢について大宮工業高校案を説明）
野辺副委員長 目指す学校の三つ目の「MHS方針より」と書かれていることがあると
思いますが、これは本校が今年度6月に国の指定を受けて行っているマイスター・
ハイスクール事業がございました。全国で15校、工業高校では7校、関東圏では本
校のみというような形での事業がございました。取組の内容について、少し御説明さ

させていただきます。スタートアップを支援するとともに、小・中学生の職業に対する興味関心を高める、地域のものづくりの拠点となる学校を目指します。スタートアップというのは中高連携で、昨今、理科教育だとかテクノロジー工学とか、様々な教育が中学校とでなされております。本校も中高連携の中で、この STREAM 教育を実践しまして、中学生を次世代マイスターとして育成を支援する、という取組を行ってまいりたいと思っております。小・中学生の職業に対する興味関心を高める、地域のものづくりの拠点ということですので、例えば中学生が学校でものづくりをしたい、ただそういった機材がない、という場合には、本校の機器を貸し出しながら、一緒になってものづくりを進めていく、新校でもそんな地域のものづくりの拠点となる学校を目指してまいります。また、マイスター・ハイスクール事業の成果を最大限に反映・活用した教育活動ということになりますので、是非そういったところの視点で、最先端分野の指導における企業の技術者や研究者を産業実務家教員に採用して指導を行っていただくと、また産官学の連携組織を活用した工業技術研修センター、総合教育センターの役割を本校の機能として、役割を果たして教育活動に繋げていきたいと思っております。

櫻井副委員長 （大宮工業・浦和工業新校基本計画検討（案）のうち基本理念（目指す学校、育てたい生徒像）、基本姿勢について浦和工業高校案を説明）

栗藤委員長 私から補足と言いますか、最初にマイスター・ハイスクールの説明の中で、STREAM 教育というのがフレーズとして出てきましたが、これは、いわゆる STEAM 教育に R を加えたものになります。その辺りについて、今日は教育局の人間も来ていますので、少し解説をお願いいたします。

野辺副委員長 マイスター・ハイスクールの中では、STEAM 教育というか STREAMS 教育ということになっているんですが、S は science、T は technology、R は robotics、E は engineering、A は art(s)、M は mathematics、S は sports ということで、様々な分野の視点から、物事を考えて、興味、関心、探究力、そして表現力、情報リテラシー、また自律的・論理的な考え方、そして創造に繋がる感性を持たせる、そういったものを、各分野を統合した形で学びを深めるというのがこの STREAMS 教育になります。特に今回の基本方針の中にも、ロボットに関するということがございますので、本校の場合については R の入った STREAMS 教育ということで行っているということです。もう既に、この点につきましては、メディアで見る宮工生の活躍等という冊子の 12 ページにあります。11 月 29 日、中学生が高校生と大学生から学ぶプログラミング授業ということで、既にこのさいたま市立大谷口中学校と日本工業大学と本校で、中学生に対して、この STREAMS 教育、プログラミングの授業を実践しているところです。こういった活動を通して、次世代マイスターを育成していきたいと考えている次第です。

栗藤委員長 ありがとうございます。このような定義ということで、この前提で話を進めていきたいと思えます。では、事務局の方から資料にある論点について説明をお願いします。

事務局 （大宮工業・浦和工業新校基本計画検討（案）のうち基本理念（目指す学校、

育てたい生徒像)、基本姿勢について論点を説明)

栗藤委員長 それぞれの項目には必ず論点が付いていますので、事務局からその点について説明がありました。御意見あるいは御質問等がありましたらお願いします。

理念やコンセプトといったところですので、なかなか難しいところではあります。

野辺副委員長 マイスター・ハイスクールについて、この後も話をさせていただくことになるんですが、実際にマイスター・ハイスクール事業がどのような事業なのかということの説明させていただいた方がよろしいかと思っておりますので、簡単に説明させていただきたいと思っております。マイスター・ハイスクール、新たな社会を支える次世代マイスターの育成を目指して、というところで今回中間報告が行われました。マイスター・ハイスクール次世代地域産業人材育成刷新事業ということで、こちら背景としましては、第4次産業の進展、DX化、第6次産業化等々、これが急速にかつ絶えず革新しているというところでございます。そういったところに対応するデジタル人材の育成ということで、この地域産業の持続的な成長を牽引する最先端の職業人の育成を、この事業で図るということになっております。最新の産業教育施設・設備をフルに活用した指導実践モデルを創出し、普及し産業構造の変化に即応した実践的な指導力の向上、つまり、デジタル人材の育成、最先端の職業人材の育成、これは生徒のことになりますが、そういった最先端のものづくりができる生徒を育てていく、そしてその最先端の技術を活用した人材を育てるための指導力を先生方に身に付けてもらうというのが、この事業の目的になります。事業内容につきましては、マイスター・ハイスクールCEOという、民間の方から管理職を本校に登用して、学校の管理職としてマネジメントをしていただくということになります。本校では前田実様が着任しているところでございます。こういった方が企業の技術者・研究者にお声がけさせていただきながら、教員として事業に参画していただくようなマネジメントをしていただいたというところでございます。ですので、これからいろいろ最先端の技術が高まっていく中で、先生方もそういった知識がない中での指導となりますので、そういった分野については、専門的な企業の方、また研究者の方を招いて、実際に事業に参画してもらうというところが、この事業のポイントになっております。またそういった産業界と一緒にカリキュラムを作っていくということが、この事業の目的の一つになっているというところでございます。簡単ではございますが、事業の概要でございます。

栗藤委員長 マイスター・ハイスクールについての説明でした。ここまでで何かございますか。よろしいでしょうか。先に進んでまいりますけれども、この基本理念はその後の教科指導であるとか生徒指導、進路指導などいろいろなところにも関わってくると思っておりますので、まずは先に進んで、もし必要があれば、前に戻って議論していくこともありかと思っております。では次のパートに行きたいと思っております。(2)の教科指導について、それぞれの教頭先生からお願いいたします。

野辺副委員長 (大宮工業・浦和工業新校基本計画検討(案)のうち教科指導について大宮工業高校案を説明)

野辺副委員長 教科指導については、協働教育の推進ということで、マイスター・ハ

イスクールの事業の継承ということになります。協働教育の推進につきましては、学校と企業、学校と地域とが一体となった地域産業の持続的な成長を牽引する人材の育成ということで、マイスター・ハイスクールの理念に掲げられていることを推進していくこととなります。それと、個別最適な学びの推進ということで、マイスター・ハイスクールを活用しながら、様々な学びを広げていく、そのために、総合選択制による教科指導、自分の学びたい教科というものを、学科を超えた総合選択制にすることで、より個別最適な学びを支援したいと思っております。それと、学びの基盤となる情報教育の充実については、先ほどもお話をいただきました、データサイエンス等の情報を有効に活用できる能力をどの学科も基盤として、更に専門知識を新たな価値の創造につなげるという形ですので、情報教育の充実、これが新校で取り組むべき基盤になると考えております。これが数理・データサイエンス・AIの基礎ということにつながっていくかと思えます。それ以外にも、校外における学習の単位認定や、生徒が計画的に自由に活用できる学習環境の提供、それとミックスホームルームの実施ということ、こちらにつきましては、1年次にミックスホームルームを実施し、3年次の学科横断的な課題研究の実践の素地となるような指導を行いたいと考えています。それと、工業科代替科目である工業情報数理というものが情報の科目の代替になっているのですが、新校になりますと、情報科教員がいますので、今までやっていた工業情報数理を情報Iという科目に、また学校設定科目に置き換えて、更に情報教育の充実を図っていければと考えております。そういったところの先には、数理・データサイエンス・AIのリテラシーとして、当たり前活用できる授業実践ということで、生徒を育成していきたいと考えています。

櫻井副委員長 （大宮工業・浦和工業新校基本計画検討（案）のうち教科指導について浦和工業高校案を説明）

櫻井副委員長 大宮工業の説明にもありましたが、総合選択制というようなことも視野に入れております。協働的な学びや主体的な学びを推進した教育の実践については、具現化として授業におけるICTの活用、アクティブラーニングや協働的な学びの推進、プレゼンテーションなど説明する力を重視していきたいと考えております。授業におけるICTの活用については、プラットフォームとして全ての教科が専用サイトを設け、資料の配布は最初から行うようにし、授業形態はアクティブラーニングをベースとして、協働的な学びや対話的な学びなどを生徒が主体的となって活動できる場面を作りたいと考えております。地域の教育力の活用については、具現化として社会人講師や大学の教員などによる専門性の高い授業を実現したいと考えております。専門性の高い授業や教員の専門性の向上のため、社会人講師や大学教員による授業を多く取り入れたいと考えております。本校でも一部の工業に係る協会や大学等において授業を実施しております。新校では戦略的・計画的に実施していきたいと考えています。また、国際理解・国際化への対応については、具現化では一部の外国語での授業の実施や多文化理解・多様性を尊重する教育としており、無謀であると思われませんが、一部の大学では実施しております。日

本も 50 年前と比較して多くの外国人が活動しています。積極的に抵抗なく世界に飛び立つという思いがあります。

栗藤委員長 事務局の方から論点の説明をお願いします。

事務局 (大宮工業・浦和工業新校基本計画検討(案)のうち教科指導について論点を説明)

栗藤委員長 ここまでのところで御意見、御質問等があれば、お願いします。よろしいでしょうか。では、先に進みたいと思います。では、生徒指導についてお願いします。

野辺副委員長 (大宮工業・浦和工業新校基本計画検討(案)のうち生徒指導について大宮工業高校案を説明)

野辺副委員長 主体的で礼儀正しい生徒の育成については、生徒、教員の明るく元気な挨拶を奨励したいと思います。それと、身だしなみを整えるという部分は、基本的には整容指導を行いながら、生徒の自主性に任せるような部分も多分に考えていければと思っています。ただし法や一般常識に照らし合わせて対応しなくてはならない、例えばいじめだとか暴力等については、厳しく指導していくという基本姿勢で臨んでいければと考えております。あとは、技術者、エンジニアとしての基盤の構築という案について、5Sの遵守、整理、整頓、清掃、清潔、躰、そういったところを進めてまいりたいと思っています。総合選択制による教科指導ですとか、校外学習における学修等による単位認定、そういったことへの気持ちをしっかり持てる、自ら意識を持って指導できるような形で進めてまいりたいと思っています。そういった中で、トリプル100ということで、就職内定100%、大学進学合格率100%と合格者100人、あとは国家資格取得100%、こういった指導ができればと思っています。

櫻井副委員長 (大宮工業・浦和工業新校基本計画検討(案)のうち生徒指導について大宮工業高校案を説明)

櫻井副委員長 頭髪指導、服装指導については、マスコミでも大変問題視されているところがございます。社会的に見て、妥当性や行き過ぎた指導はないかを検証していきたいと考えています。日本独自の生徒指導の文化も大切にしながら、国際的流れも注視しながら、これからも生徒指導を提案できるようにしたいと考えております。また、これまで本校では5S活動を大切にしていまいりました。生徒指導と安全教育は一体的に指導していきたいと考えています。多文化・多様性の尊重については、国際化に伴い、これまでの社会常識として捉えるのではなく、宗教や民族文化を尊重し、配慮する姿勢を持っていきたいと考えております。

栗藤委員長 それでは事務局の方から論点についてお願いします。

事務局 (大宮工業・浦和工業新校基本計画検討(案)のうち生徒指導について論点を説明)

栗藤委員長 生徒指導について、御意見、御質問等があれば、お願いします。よろしいでしょうか。それでは、一通りそれぞれの案を説明してまいりたいと思いますので、次に進みたいと思います。では4番目、進路指導についてお願いいたします。

野辺副委員長 （大宮工業・浦和工業新校基本計画検討（案）のうち進路指導について大宮工業高校案を説明）

櫻井副委員長 （大宮工業・浦和工業新校基本計画検討（案）のうち進路指導について浦和工業高校案を説明）

栗藤委員長 それでは事務局の方から論点についてお願いします。

事務局 （大宮工業・浦和工業新校基本計画検討（案）のうち進路指導について論点を説明）

栗藤委員長 それでは進路指導について、何か御意見、あるいは御質問がございましたらお願いします。よろしいでしょうか。では先に進んでまいります。5番目の生徒募集について、よろしくお願いたします。

野辺副委員長 （大宮工業・浦和工業新校基本計画検討（案）のうち生徒募集について大宮工業高校案を説明）

櫻井副委員長 （大宮工業・浦和工業新校基本計画検討（案）のうち生徒募集について浦和工業高校案を説明）

櫻井副委員長 地域の広報活動についてですが、地域の活動に参加するのは、地域の人々の口コミや評判に繋がります。学校を身近に感じてもらえるよう、地域活動は大切にしていきたいと考えています。また、情報発信についてですが、広報活動にはSNSの活用は不可欠であると考えています。良い意味で話題になる学校にしたいと考えています。中学校への働きかけについては、現在の中学教員におけるキャリア教育は不十分であると考えています。その結果が将来就きたい職業を考える機会を先延ばしにし、結果、普通科志向になっていると考えています。中学校のキャリア教育の充実のために、工業・情報という立場で中学校を支援していきたいと思えます。独自の入試制度という案については、教育委員会と協議しなければいけない内容ですが、独自の入試を行い、尖った才能を見つけることが大切であると考えています。中学校まで独自に研究してきた内容をプレゼンするなど、通常の入学者選抜は別に実施したいとも考えております。

栗藤委員長 事務局の方から論点についてお願いします。

事務局 （大宮工業・浦和工業新校基本計画検討（案）のうち生徒募集について論点を説明）

栗藤委員長 それでは生徒募集について、何か御意見、あるいは御質問がございましたらお願いします。生徒募集の中では、独自の入学者選抜の制度というものも、案として挙がってきていますが、この辺り、担当課としても初耳でしょうか、または事前にそういった相談などはあったのでしょうか。もしコメントがあれば。なければ結構です。現在の第1期実施方針における、本庄市にある児玉新校と飯能市にある飯能新校ですが、やはり生徒募集というところでは、元々苦戦していたところもあるんですけれども、なかなか厳しい状況が続いています。生徒が私学、あるいは通信制に、という流れがある昨今ですので、いかに魅力を出していくか、今日も関係課の者が来ていますが、一方で働き方改革ということもあって、学校の外に向けての活動が教職員の負担になるという部分もあり、学校の生徒と向き合う時間を確

保しつつ、こうしたPR活動をどう続けていくか、なかなか難しいところではあります。では、あと一項目ですので、このまま説明を続けていきたいと思えます。その他は大宮工業のみですので、よろしくお願ひします。

野辺副委員長 （大宮工業・浦和工業新校基本計画検討（案）のうちその他について大宮工業高校案を説明）

野辺副委員長 現在行われておりますマイスター・ハイスクール事業の継承、これを強く求めていきたいと思っています。やはり最先端の産業分野における人材育成ということは、様々な方との繋がりを持った協働教育を進めなくてはならない、ということになろうかと思えます。そういった中でこのマイスター・ハイスクール事業で培ったものを新校に上手く当てはめながら、進めてまいりたいと思えますので、こういった成果につきましては、継承していきたいと考えております。また、新校につきましては、新たな専門高校の設置になろうかと思えます。今までの工業高校の考え方・概念でなく、新たな専門高校の設置というところで行きますと、やはり継続的な教育、大学との連携強化、継続的な教育の仕組み・制度を構築していくことも検討していきたいと思っておりますので、例えばこの先5年間、7年間の継続教育、大学との連携や高専、専攻科の設置等も含め、是非検討を進めていければと考えているところです。

栗藤委員長 ありがとうございます。では、以上で一通り説明が終わりましたので、前に戻っても結構ですので、広く御意見を頂戴できればと思っております。

菊池委員 教員を30年やっているんですけども、情報に関する学科を設置するということは、工業高校にとってかなり革新的なことだと思っております。その流れの中で、私は生徒指導を担当しておりますが、県としては、工業高校に教科情報を加えることによって、かなり生徒の質が変わってくると自分は思っています。まず女子が相当増えると思っておりますし、そうなってくると、生徒指導で、私は浦和工業にも7年くらいいたんですけども、お互いに持ち寄って生徒指導のことを併せても、現在の生徒の実像とかなり違う生徒が入ってくる可能性があり、教科情報の方がいらっしやらない中で、こういう話をしていくのが、先に進んでいくのが少し不安に感じています。県としては、どういう生徒が入学してくるというビジョンがあるのか、単純に大宮工業と浦和工業がくっついただけですと、余り生徒の質が変わらないと思っております。同じような層の子が来るというイメージがありまして、この検討委員会の方に教科情報の方がいらっしやる可能性というのはあるのでしょうか。まず一つ目が教科情報の方が今後、この委員会に入ってくる可能性があるかどうかということ。二つ目として、県としては教科情報が入ってくるとなると、施設設備がかなり大変になると思うので、校舎の改善であるとか、建物の改築、増築であるとか、そこまでも見込んで話ができるのかどうかをお聞きできればと思えます。

栗藤委員長 2点、御質問という形でしたが、事務局からいかがでしょうか。

事務局 一つ目についてお答えします。教科情報の先生については、令和8年度に開校予定ですので、令和8年度には当然入ってくることになります。ですが当然、令

和8年度に来て、すぐになかなか順応はできないので、ここからは検討なのですが、開校前年度から必要なのか、もしくは2年前から必要なのか、この辺りは相談しながら、担当課もありますので、はっきりは言えませんが、基本的には令和8年度からは入ってくるということです。前年度については、検討、調整させていただければと思います。二つ目の、情報をどこまで、予算的、設備的などは、正直、はっきりと私の方からお答えすることが難しいのですが、新校の生徒は、菊池委員のおっしゃるとおり、これまでの工業高校とは違った生徒が入学してくる可能性が十分にあると考えています。当然、進学を目指した情報教育というところもございませし、女子生徒が増えるといったところの狙いも、なかなか言葉には表せませんが、期待はあるかと思えます。そういった生徒のことも含めて、施設・設備をどの程度まで整えられるかは、今後調整をさせていただき、可能な範囲で、当然担当課もおりますので、基本は既存の施設を利用して、足りないところを補っていく形にはなると思えます。現時点ではそこで回答は止まってしまうのですが、はっきりとどこまでできるとお答えすることはできないですが、御要望等があればお聞きしたいと思えます。

栗藤委員長 どうしても予算のこと、あるいは人的な配置のことというのは、付くものが付かなかったりしないと、なかなか難しいですよね。情報の教員についても、生徒がいないのに教員を付けるということは、なかなか難しいところがあると思えます。ただその分、教育委員会内で十分に議論、検討をしていくということになるかと思えます。これは担当各課も、今のお話については御検討いただければと思います。他にございますでしょうか。

野辺副委員長 何点か少しここで話をさせていただきたいことがございます。まず、最初のところの基本姿勢について、浦和工業案の記載の中で、埼玉県工業教育・情報教育のパイロット校というのがありまして、このパイロット校という言葉が少し気になるところでございます。このパイロット校という言葉は、先行試作とか実験・試験的試案のような、「試す」というような言葉の捉え方ができてしまうと思えます。これは試して何か発信していくものではなくて、明らかにこれを先進的に進めていく拠点校であるということになりますので、このパイロット校という言葉は合わないと感じております。もう一つは、国際教育ですかね、国際理解、国際化への対応ということで、こういった流れの中には、昨今は国際バカロレア等の話も各校いろいろ出てきているかと思えます。今後新校でもそういったところ、ぜひキャリア関係のプログラムというものが、日本では全く行っていないのですが、新校に向けてそういった新しい取組も検討していく必要があろうかと思えますので、是非その辺も御理解いただきながら、今後検討していければと考えております。それと、先ほども本校職員からありましたが、スクール・ミッションにつきまして、基本方針に、先端産業分野で活躍できる人材の育成とありますが、これがスクール・ミッションではないかと思っているところですが、更にこの目指す学校ということで各学校が作成しているところですが、何か少し違和感を覚えるところがあります。スクール・ミッションというものが県の方から示されているのであれば、それが目指

す学校になると思っておりますので、そういった形で是非、県の方からこういうふうな形で考えてほしいというようなことをトップダウンで下ろしていただければ、議論も進むのではないかと思いますので、是非そういったことも御検討いただければと思います。

栗藤委員長 ありがとうございます。パイロット校に込めた思いみたいなものは、説明してもらった方が良いですか。それとも県として御意見を頂戴するということが良いですか。事務局としてはいかがですか。

事務局 こちらも論点に書かせていただきましたが、この辺、拠点という意味かなと捉えておりましたが、櫻井教頭先生に聞いていただいても良いかと思えます。

櫻井副委員長 大きなこだわりはなく、言葉を見つけていった感じなのですが、エンジニアとかスペシャリストというのが、スペシャリストと言うのは本校でも使っている言葉でして、工業だけではなく教科情報も来るということで、新たな言葉を探していてパイロットということにさせていただきました。イメージの問題でございます。

栗藤委員長 他の部分ではどうでしょうか。ミッションのお話が最後にありましたけれども、御案内のとおり、現在、埼玉県ではスクール・ポリシーというものをそれぞれの学校に作ってもらっています。ミッションについては、本来は設置者がそれぞれの学校の使命とか役割とか在り方みたいなものを作ることになっていますが、それは今のところ本県にはない形になっています。ただ、こういった新しい学校を作る場合には、県の方からこういう学校を作りたいということで、今回、そういう意味で言うと、この基本方針が限りなくそれに近いというその見方は、確かに正しいと思っています。ですので、また年度が改まったところで、ミッションについてどのような取扱いをしていくかということも、実のところ、別の担当課等が検討しているところもありますので、またそういったことが分かりましたら、皆様にお伝えしたいと思えますが、今のところは、それぞれの学校のミッションというのは、埼玉県にはありません。ただ、目指す学校像というものをそれとみなして、今の学校の取組を進めていただいているというのが実状です。この狭い議論の中で述べるとすれば、第2期実施方策の中にあつた基本方針がまさにそれに近いものだという認識ではあります。それから国際バカロレアの件もありましたけれども、IBCP、キャリア関連プログラムのことだと思います。これはどうなんですか、DPの科目が二つ必要ですよ。そういった、かなり条件、ハードルが高いものなんですけれども、是非新しい学校にはというお話だと思いますので、これもそれぞれ担当課に検討事項として持ち帰っていただければと思います。ここではどういう結論にもならないと思えますけれども、来年度の第2回目に向けて検討する題材にしたいと思えます。よろしいでしょうか。他にございますでしょうか。

櫻井副委員長 すみません、協議の場とは少し違ってしまふのかもしれませんが、浦和工業高校としては、今いくつかの課題というか、どの辺が目標なのかということを考えています。例えば先端産業分野というのが、何が先端産業分野なのか、どこ

までがということですかね、これが大宮工業と本校でちょっと目指しているイメージが異なると、次回の骨子の作成に向けて、少し難しくなるのかなと思うので、定義というわけではないですけども、両校の先生方で、先端産業分野とは何なのか、について今後議論していきたいかなと思っています。また昨日もミーティングをしてきたんですけども、ミックスホームルームだとか単位制ということが今回出てきました。前期後期の学校を経験された先生もいらっしゃると思いますので、そういった中で、細かいことではあるかもしれませんが、ここのボタンを掛け違えてしまうと、なかなかうまくいかないのかなと考えておりますので、先端分野の定義、ミックスホームルーム、単位制、前期後期制など、早めに情報共有、情報交換していきたいと思います。もし大宮工業高校の先生方で何かあれば、御意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

栗藤委員長 問題提起と言いますか、それぞれの学校で個別具体的話もいろいろ話題になっているようですね。この辺りはこの先詰めていくんですけども、まずは大きな枠組みをとということで最初、この委員会の役割、ミッションについてお話をさせていただいております。いわゆる戦略的な部分を練る、という意味であって、戦術面はその先に付いてくることです。先に戦術を先行させるということはなかなか難しいと思いますので、これはそれぞれの校内で御議論いただいたものを、それぞれの教頭先生を通じて、私どものところに出していただければと思っています。もちろん具体的に、先生方同士が意見交換されたいということであれば、それはいろいろな機会を通じてやっていただければと思うんですけども、それぞれの学校で紹介があったかどうか分かりませんが、この12月1日から、それぞれの教頭先生方は当課の主任管理主事の兼務発令を受けております。ですので、大宮工業高校の教頭であり、かつ当課の職員です。浦和工業高校の教頭先生であり、当課の職員でもあります、という中ですので、是非それぞれの教頭先生を起点に、いろいろな情報交換等をやっていきたいと思いますし、先生方とのパイプも、そういった中で、作っていただけらなと思っていますので、よろしくお願いいたします。大きな構えの部分で、もう少し御意見があれば頂戴いたしますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、それぞれの教頭先生を起点に、情報交換等を是非進めていければと思います。協議については、これで閉じたいと思います。